

むくのきだより 5月号



令和7年4月30日

港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

重点目標「やさしい子:人や自然を愛し、豊かな心をもつ子」

～子供たちが育つ「遊びの環境」を整えて～

園長 中村 美奈子

5月を迎えるにあたり、子供たちの健やかな成長を願い、かぶとを赤羽幼稚園の入り口正面に飾りました。園庭では、初夏の風の中、大きな鯉のぼりが元気に泳いでいます。年長ゆり組の子供たちが作った大きな鯉のぼりも一緒に泳いでいます。年長ゆり組の子供たちは、友達と色や模様を話し合っ
て「せっけいず」を描き、グループで協力して作り上げました。年少さくら組の子供たちは、先生が新聞チラシを丸めて作った棒に、自分で作った小さな鯉のぼりを付けてもらいました。棒を持って走ったり振ったりして鯉のぼりを泳がせ、にっこりしていました。

4月、年長ゆり組の子供たちに朝の支度を手伝ってもらっていた年少さくら組の子供たちも、今は自分でリュックをしまって園服をたたんで好きな遊びを楽しんでいます。おうちを作ったり、線路をつなげたり・・・その中で、子供同士の関わりが始まり、言葉のやり取りも生まれています。

令和6年10月に出された「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告」では、幼児期の発達の特徴を次のようにまとめています。

○人は生まれながらにして、自然に成長していく力と同時に、周囲の環境に対して自ら能動的に働き掛けようとする力を有しており、環境と関わり合う中で、生活に必要な能力や態度等を獲得していくと考えられている。

○かつては、生活に必要な能力や態度などの獲得については、大人に教えられた通りに幼児が覚えていくという側面が強調されることもあったが、幼児期は、幼児自身が自発的・能動的に環境と関わりながら、生活の中で状況と関連付けて身に付けていく時期である。したがって、それらの獲得のためには、遊びを中心とした生活の中で、幼児自身が自らの生活と関連付けながら、好奇心を抱くこと、あるいは必要感をもつことが重要である。

この幼児の特徴を念頭に置き、本園では、子供たちが帰った後、その日の様子を思い返しなが
ら、子供同士の関わりが生まれるように遊具を配置したり材料を用意したりして園内の環境を整えています。これからの季節は、園庭の植物も大きく育ち、生き物も集まってきます。子供たちが元気に園庭探検に出かけたり、思いっきり体を動かして遊んだりしてほしいと思っています。そのために教職員で知恵をしまり、子供たちが「興味・関心をもつ」「好奇心を抱く」「やってみたい！」と思う環境を整えていきます。

